

第8回 那賀川流域治水協議会 議事概要

1. 日時：令和7年3月24日(月) 10:45～12:00

2. 場所：阿南市役所 3階 303・304会議室

3. 協議会構成員

阿南市	市長	岩佐 義弘	
小松島市	市長	中山 俊雄	
那賀町	町長	橋本 浩志	
徳島県	県土整備部長	朝田 将	
徳島県	農林水産部長	中藤 直孝	
徳島県	南部総合県民局県土整備部長		佐野 功
徳島県	南部総合県民局農林水産部長		伏谷 茂
中国四国農政局	四国土地改良調査管理事務所計画課長		河相 泰信
四国森林管理局	徳島森林管理署長		尾山 真一
森林整備センター	徳島水源林整備事務所長		橋本 直樹
気象庁	徳島地方气象台長		雛川 博文
四国地方整備局	那賀川河川事務所長		北川 誠純
徳島県企業局	事業推進課 施設基盤整備室長		佐古 英昭 (オブザーバー)
四国電力株式会社	徳島支店技術部次長		草薙 雄二 (オブザーバー)

4. 配付資料

議事次第

- (資料1) 那賀川流域治水協議会 規約(案)
- (資料2-1) これまでの取り組みと今後の進め方
- (資料2-2) 那賀川水系流域治水プロジェクト
～安全・安心で光り輝く那賀川をつむぐ流域治水対策～
- (資料3) 流域治水の実践と深化について
- (資料4) 那賀川流域治水協議会における自分事化に向けた取組計画(案)
- (参考資料) 農地・農業水利施設を活用した主な流域治水対策の支援事業
多面的機能支払の次期(第3期)対策の方向について

5. 議事

- 1) 規約の改正について
- 2) 那賀川水系流域治水プロジェクトの取組状況
- 3) 那賀川水系流域治水プロジェクトの実践と深化
- 4) 令和7年度那賀川流域治水協議会における自分事化に向けた取組計画
- 5) 意見交換

6. 主な意見

○那賀川水系流域治水プロジェクトの取組状況について

・徳島県県土整備部長

森林関係、農業関係の方々の取組について、中小河川において一定の機能を果たすことは間違いないが、例えば森林整備として今回間伐した面積が那賀川流域のどれくらいを占めているのか、農業関係では田んぼダムの取組がどのくらいの面積で行われているか、これらを見える化することによって、普及するために何が足りないのかを現場レベルで課題として明確化していくことが重要なことだと考えている。

・徳島県農林水産部長

田んぼダムについて圃場整備の際に農地所有者、耕作者の理解を得ながら進めている。協力いただいている方々に対して効果を示せるように、資料を整理して見える化に向けて取り組んでいきたい。林業についても公有林、民有林含めて進めているが、国有林とも相談しながら実施していきたい。

○意見交換

・那賀町長

那賀町では、間伐作業を年間 200 ha程度を目処に実施しているところだが、人工林比率が高く、定期的に更新をしていかないと山そのものがもたなくなるため、間伐とは別に、皆伐等も進めている。

しかしながら皆伐を実施した後の植樹の人手が足りていない現状があるため、県・国や整備センターならびに阿南市の企業など町外の方にも協力をいただきながら皆伐や植栽を進めているが、なかなか進んでいない。人手不足については広くいろいろな方に知ってもらい、上下流での連携を深めていかないと、上流だけでは働き手の確保が出来ないと考えている。町としても補助をしながら担い手の確保に務めているが、いろいろなところでご支援いただきたい。

・阿南市長

那賀町長も言われたように、下流域にある阿南市として山の力を維持するなど、流域全体の課題として治水や利水・渇水対策について対応しなければならないと考えている。特に土砂の流入を抑える上でも治山事業は大事だと思っている。水源涵養の取組で企業にもご協力いただきながら進めていきたい。資金面だけでなく、人材確保についてもしっかりバックアップしていきたい。

・小松島市長

那賀町長と阿南市長の話にもありましたが、農林水産事業を持続的に継続していくには、人の確保は喫緊の課題である。本市は多面的機能支払交付金事業によって、農道や水路等の保全管理を実施しているが、地域共同活動を継続していくためには、農業者、地域住民、団体等で構成された組織が必要である。この組織が農業の担い手の減少により活動継続を断念することで地域資源の保全管理が出来なくなることを危惧している。本市においては様々な策を立て、

新規就農者への支援を実施しているが農業者の減少傾向は続いている。本日もご参会の皆様のお知恵を借りながら担い手の確保に尽力していきたい。

もう一点、取組の中でも説明いただいた和田島ポンプ場の改修について、この成果は非常に大きいと感じている。本市は非常に土地が低く浸水地域が多いため、このポンプ場の整備で和田島地域の浸水がほとんどなくなったというような効果が出ている。今後も激甚化する豪雨災害に備えて各地のポンプ場の整備、老朽化対策、新築を進めていく。かなりの費用が必要であるため、国の支援等お願いしたい。

・徳島県県土整備部長

様々な取組が行われていることは素晴らしいと思う。報告だけではなく課題を明らかにし、次にどうするかを具体的に考えていくことが重要である。県は総合調整の立場にあるが、より現場に近い立場の市町村にも多くの悩みがあると思う。そういう意見をしっかり聴き、どうやれば推進できるかをしっかり考えて行かないといけない。

吉野川の流域治水協議会に参加した際、土地利用規制についての取組事例が紹介された。その数が多いことに驚いた。すべてを堤防等で様に守ればよいが、優先順位を決めて実施しないといけない。上流の家屋がないところをどのように守るかという、守り方の議論が吉野川は進んでいるように感じた。その中で、市町の役場の方々の苦労等も具体的に紹介されていたので那賀川でも参考になると考える。また、土地利用規制という手段が「特定都市河川」という新たな法律に基づくものであり、今後那賀川でも議論が必要となり得る。

・徳島県農林水産部長

農林関係の人手不足の話があったが、林業関係では林業アカデミーや那賀高校の森林クリエイト科等が出来たことによって、林業関係に就職する方が増えている。R7年度から県外の受験生への各種補助も実施するなど、県内外から多く来ていただけるように支援の充実を図っているため、PRを進めていきたい。

農業関係では多面的機能支払交付金では広域化が重要という事だが、徳島県では156組織中18組織が広域組織でまだ少ないと思っている。まだまだ引き上げていきたい。広域化が出来なくても、事務作業の一元化は出来るので考えていきたい。また事務支援ソフトがあるが、徳島県では、まだ5%の普及率しかない。今後講習会等を開催し普及率を上げていきたい。

・那賀川河川事務所長

那賀川水系流域治水プロジェクトの課題についての話がありましたがこういう場での横のつながりを生かし情報交換・相談を行いながら流域治水を進めて行けたらと思っておりますのでご協力よろしく申し上げます。

以上